

# 住宅リフォーム推進協議会会長賞

## 講評:

都内の住宅街に建つ築後20年を経た一戸建て木造住宅の増改築である。建物はもともとあった母屋に現在の夫婦が同居するために別棟を増築したもので、棟のつながり方や採光通風がよくなかったために今回の建物全体の大改修となった。リフォームの動機には、「自宅にアトリエとサロンを設けたい」という夫人の希望と、ご子息夫婦の同居という事情があった。

改造された住宅は中庭を中心に穏やかなつながりのある二世帯住宅としてうまく再構築されている。中庭に面して1階には床の間や天井をそのまま残したファミリールームを、また2階には昔の障子を再利用した和室をつくり、二つの世帯の共用空間として利用するようにした。

リフォームの計画に当たっては耐震性や採光、通風などについてもきめ細かく検討されている。耐震性では柱や梁を補強した。またアトリエには採光のためにガラス瓦で天窗をつくり、通風のための小窓を各所に設けた。暖房には床暖房を採用し全体として安全で快適な生活空間になっている。

間取りの再構築について補足すれば、居間は婦人のカリグラファー教室に利用できるサロンに改装し、食堂は天井を取り払って吹抜けのあるアトリエになった。

道路側からの外観も大胆に和風から洋風に変えた。それに伴い駐車スペース前の門塀も新しい建物に合ったデザインとして美しい景観を創出している。

大規模なリフォームであったため、設計期間も工事期間も共に長かったが、その間に施主と設計者と施工者との関係が親密になった。設計者の「この仕事は楽しかった」という言葉がそれをよく物語っている。本格的な住宅リフォームの時代に相適しく新築では得られない住まいの歴史を程よく残すとともに、住み手の新しいライフスタイルを見事に実現させたリフォームの事例として高く評価できる作品である。

以上の理由により住宅リフォーム推進協議会会長賞に推薦した。



リフォーム前



リフォーム後

住宅リフォーム推進協議会  
会長賞

第20回 住まいのリフォームコンクール

みんなが集まる風通しの良い二世帯住宅

持家一戸建

総合

リフォームの動機/設計・施工にあたって工夫したこと

カリグラファーである夫人が、自宅にアトリエとサロンを設けたいことから計画が始まった。建物は、亡くなった両親が住んでいた母屋に、現在の夫婦が同居する際に別棟を増築したものだが、二棟のつながりや採光通風が不十分な住まいだった。近々同居する息子夫婦との二世帯住宅として各部屋の関係と動線を整理した結果、結局建物全体に及ぶ大改修となった。改修にあたっては、建物全体をそれぞれの世帯のスペースと共用スペースの3つのエリアに分け、中庭を中心に緩やかにつながる二世帯住宅となるよう、間取りの再構築を行った。

元の居間は教室に利用できるサロンに改装し、食堂は天井を取り払ってトップライトのある吹抜けのアトリエに改装した。

また、台所はサロンとつながるダイニングキッチンに改装し、黄色のアクセントカラーで明るく開放的な雰囲気にした。1階の和室は広縁を取り込んだ和洋折衷の居間(ファミリールーム)に改装し、その2階も和室の客間に改装して、両世帯をつなげている緩衝スペースとしている。下屋だった台所の2階には寝室を増築して、エントランスゲートとイメージを統一した、外観上のアクセントとなっている。

リフォーム前

リフォーム後



送付の際はこの縦で折ってください

リフォーム前後の写真



リフォーム後

① リフォーム前

②



リフォーム後 ③

データ

所在地	東京都杉並区		
構造・築年数	在来木造	築後年数	20年
工事面積	該当面積 266 m <sup>2</sup>	総工事床面積	266 m <sup>2</sup>
居住者構成	5人(大人 5人(うち高齢者 1人)/子供 0人)	ベット	2人
竣工時期	平成 14年 7月		
設計・工事期間	実設計期間 120日間	施工期間	180日間
工事費	該当部分 4300万円	総工事費	4300万円
設計者	イン・ハウス建築計画	担当者名	中西 宏次
施工者	(株)参創ハウテック	担当者名	唐澤 浩